

トを書こうとされている方などは、今後、電卓をお求めになる場合は、この種の電卓をお求めになることをおすすめします。

この種の電卓の値段は、昭和55年6月現在6,000円ぐらいのものから市販されています。

これほどの電卓は必要とされない方でも、せめて、メモリーキーのある電卓をお求めになれば、それでも計算は、筆算の何倍も何倍も楽になります。

M+：メモリープラスキー 記憶の部屋に加える。

M-：メモリーマイナスキー 記憶の部屋からひく

MR：メモリーリコールキー 記憶の部屋にある数字を呼出して表示する。
RMキーと表示している電卓もある。

MC：メモリークリアキー 記憶の部屋にある数字を消し去る。
CMキーと表示している電卓もある。

なお、MCキーのない電卓もありますが、この場合は、他のキー（例えばMRキー）が、この働きをします。

メモリーキーのある電卓を、かりに、Mあり電卓ということにします。この種の電卓の値段は3,000円ぐらいのものからあります。

また、メモリーキーのない電卓でも、それでもやはり筆算で求めるよりは、何倍も速く計算ができますが、残念ながら、その便利さにおいて、速度において、とてもMあり電卓の比ではありません。それで、今後新たに、電卓をお求めになる方は、Mあり電卓をお求めになった方が得です。値段は、メモリーキーのない電卓：Mなし電卓 とそう変わりはありません。

これから、Mあり電卓、Mなし電卓を用いた場合の、平均値 \bar{x} と、標準偏差 σ の求め方について説明しますが、その前にちょっと、これから用いる記号についての約束をしておきます。

記号の約束

n は、データの数、 \sum は総和（合計）を表す記号で、

$\sum x$ は、データのの一つ一つの値 x の総和（合計）を表し、

$\sum x^2$ は、 x を2乗したものの総和（合計）を表します。